

定期作況報告（最終）

（第7号 平成24年11月20日現在）

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部 上川農業試験場

1. 気象概況

≪平成23年≫

11月：平年に比べ最高気温は上、中旬が各々1.5℃、2.4℃高く、下旬は0.9℃低かった。最低気温は上、下旬が各々0.2℃、0.6℃低く、中旬は0.3℃高かった。降水量は上、中旬が各々39.2mm、2.4mm、少なく、下旬は5.0mm多かった。日照時間は上、中旬が各々11.8時間、5.4時間多く、下旬は2.8時間少なかった。

12月：平年に比べ最高気温は上、中旬は各々1.9℃、1.3℃低く、下旬は0.8℃高かった。最低気温は上中旬が各々4.4℃、0.9℃低く、下旬は0.2℃高かった。降水量は上、中旬が各々2.9mm、0.6mm少なく、下旬は8.6mm多かった。日照時間は上、中、下旬とも各々10.1時間、3.4時間、1.2時間多かった。

≪平成24年≫

1月：平年に比べ最高気温は上、中、下旬とも各々0.1℃、2.9℃、2.9℃低く、最低気温も上、中、下旬とも各々2.0℃、5.8℃、4.8℃低かった。降水量は上、中、下旬とも各々14.9mm、6.5mm、11.4mm少なかった。日照時間は上、中、下旬とも各々3.9時間、8.0時間、7.1時間多かった。

2月：平年に比べ最高気温は上、中、下旬とも各々2.2℃、2.4℃、3.3℃低く、最低気温も上、中、下旬とも各々1.8℃、2.8℃、5.1℃低かった。降水量は上、中、下旬とも各々3.1mm、4.5mm、10.9mm少なかった。日照時間は上、下旬が各々6.5時間、14.5時間少なく、中旬は4.6時間多かった。

3月：平年に比べ最高気温は上旬が同程度で、中、下旬は各々2.3℃、1.0℃低かった。最低気温は上、中、下旬とも各々1.2℃、4.1℃、3.2℃低かった。降水量は上、中、下旬とも各々4.0mm、4.4mm、3.6mm少なかった。日照時間は上、中旬が各々16.8時間、12.1時間多く、下旬は14.1時間少なかった。

4月：平年に比べ最高気温は上、中旬が各々5.6℃、0.5℃低く、下旬は5.9℃高かった。最低気温は上旬が5.4℃低く、中、下旬は各々0.1℃、2.1℃高かった。降水量は上旬が15.2mm多く、中、下旬が各々15.0mm、17.7mm少なかった。日照時間は上旬が12.5時間少なく、中、下旬は各々2.3時間、36.6時間多かった。

5月：平年に比べ最高気温は上、下旬が各々4.3℃、0.8℃高く、中旬は2.2℃低かった。最低気温は上、下旬が各々4.0℃、1.1℃高く、中旬は0.9℃低かった。降水量は上、中、下旬とも各々19.9mm、8.3mm、3.0mm少なかった。日照時間は上、下旬が各々15.0時間、16.9時間多く、中旬が16.7時間少なかった。

6月：平年に比べ最高気温は上、下旬が各々2.8℃、1.5℃高く、中旬は2.1℃低かった。最低気温は上旬が0.8℃高く、中、下旬は各々2.3℃、0.4℃低かった。降水量は上、中旬が各々0.5mm、1.1mm多く、下旬は28.8mm少なかった。日照時間は上、中、下旬とも各々17.4時間、2.7時間、41.3時間多かった。

7月：平年より最高気温は上、下旬が各々0.9℃、2.7℃高く、中旬が0.9℃低かった。最低気温は上、下旬が各々1.5℃2.2℃高く、中旬が3.0℃低かった。降水量は上旬が2.9mm多く、中、下旬が各々40.9mm、4.5mm少なかった。日照時間は上、中、下旬とも各々1.1時間、42.6時間12.8時間多かった。

8月：平年に比べ最高気温は上旬が2.5℃低く、中、下旬が各々0.3℃、4.5℃高かった。最低気温は上旬が2.4℃低く、中下旬が各々0.4℃、4.1℃高かった。降水量は上、中、下旬とも各々29.7mm、64.0mm、15.0mm多かった。日照時間は上、中旬が各々2.0時間、9.5時間少なく、下旬が22.4時間多かった。

9月：平年に比べ最高気温は上、中、下旬とも各々3.4℃4.4℃、2.8℃高く、最低気温も上、中、下旬とも各々3.6℃、6.6℃、4.7℃高かった。降水量は上、中旬が各々11.4mm、37.8mm多く、下旬が26.2mm少なかった。日照時間は上旬が19.0時間多く、中、下旬が各々5.9時間、2.4時間少なかった。

10月：平年より最高気温は上、下旬が各々2.1℃、0.4℃高く、中旬が1.3℃低かった。最低気温は上、中、下旬とも各々1.2℃、1.6℃、0.8℃高かった。降水量は上旬が20.9mm少なく、中、下旬が各々56.4mm、6.9mm多かった。日照時間は上旬が17.2時間多く、中、下旬が各々23.0時間、7.2時間少なかった。

根雪終は4月23日で平年より14日遅く、積雪期間は平年より19日長かった。耕鋤始は4月25日で平年より6日遅かった。晩霜は平年より24日早い4月22日である（表1）。

平成23年11月から平成24年10月までの気象は表2のとおりである。

表1 季節表

	初霜 (前年)	降雪始 (前年)	根雪始 (前年)	根雪終 (月日)	積雪期間 (日)	降雪終 (月日)	耕鋤始 (月日)	晩霜 (月日)	初霜 (月日)	降雪始 (月日)
本年	10月4日	10月3日	11月20日	4月23日	155	5月12日	4月25日	4月22日	10月8日	11月18日
平年	10月12日	10月27日	11月25日	4月9日	136	4月29日	4月19日	5月16日	10月10日	10月25日
比較	△ 8	△ 24	△ 5	14	19	13	6	△ 24	△ 2	24

- 注 1) 本年は平成23～24年の値。
 2) 根雪始、根雪終、積雪期間、耕鋤始、は比布圃場の観測値。平年は過去10か年の平均値。
 3) 初霜、降雪始、降雪終、晩霜は旭川气象台による旭川市の観測値。
 平年は過去10か年の平均値。
 4) △印は平年に比べて早いあるいは短いを示す。

表2 気象表

年 月 旬	最高気温(°C)			最低気温(°C)			平均気温(°C)			降水量(mm)			降水日数(日)			日照時間(hr)		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
2011 上	10.7	9.2	1.5	1.1	1.3	▲ 0.2	5.4	4.9	0.5	1.0	40.2	▲ 39.2	1	7	▲ 6	36.5	24.7	11.8
11 中	7.1	4.7	2.4	-1.5	-1.8	0.3	2.9	1.3	1.6	29.5	31.9	▲ 2.4	4	7	▲ 3	24.2	18.8	5.4
下	1.8	2.7	▲ 0.9	-4.5	-3.9	▲ 0.6	-1.4	-0.7	▲ 0.7	43.5	38.5	5.0	6	7	▲ 1	16.2	19.0	▲ 2.8
12 上	-2.4	-0.5	▲ 1.9	-11.5	-7.1	▲ 4.4	-6.0	-3.5	▲ 2.5	29.0	31.9	▲ 2.9	7	8	▲ 1	27.3	17.2	10.1
12 中	-3.6	-2.3	▲ 1.3	-10.6	-9.7	▲ 0.9	-6.6	-5.5	▲ 1.1	25.5	26.1	▲ 0.6	8	6	2	17.3	13.9	3.4
下	-2.5	-3.3	0.8	-11.0	-11.2	0.2	-6.5	-6.7	0.2	32.5	23.9	8.6	6	7	▲ 1	19.1	17.9	1.2
2012 上	-3.9	-3.8	▲ 0.1	-13.9	-11.9	▲ 2.0	-7.9	-7.2	▲ 0.7	4.0	18.9	▲ 14.9	3	7	▲ 4	20.6	16.7	3.9
1 中	-7.8	-4.9	▲ 2.9	-19.3	-13.5	▲ 5.8	-12.7	-8.6	▲ 4.1	12.0	18.5	▲ 6.5	3	7	▲ 4	29.3	21.3	8.0
下	-6.7	-3.8	▲ 2.9	-17.4	-12.6	▲ 4.8	-11.0	-7.6	▲ 3.4	7.5	18.9	▲ 11.4	5	6	▲ 1	36.9	29.8	7.1
2 上	-5.3	-3.1	▲ 2.2	-14.8	-13.0	▲ 1.8	-9.3	-7.5	▲ 1.8	11.5	14.6	▲ 3.1	6	6	0	27.0	33.5	▲ 6.5
2 中	-5.1	-2.7	▲ 2.4	-15.6	-12.8	▲ 2.8	-10.1	-7.2	▲ 2.9	14.5	19.0	▲ 4.5	5	5	0	39.3	34.7	4.6
下	-3.8	-0.5	▲ 3.3	-16.3	-11.2	▲ 5.1	-8.7	-5.4	▲ 3.3	7.5	18.4	▲ 10.9	3	5	▲ 2	20.4	34.9	▲ 14.5
3 上	-0.2	-0.2	0.0	-11.4	-10.2	▲ 1.2	-5.4	-4.7	▲ 0.7	12.0	16.0	▲ 4.0	2	5	▲ 3	59.7	42.9	16.8
3 中	0.1	2.4	▲ 2.3	-10.7	-6.6	▲ 4.1	-4.9	-1.8	▲ 3.1	14.5	18.9	▲ 4.4	2	5	▲ 3	48.6	36.5	12.1
下	3.2	4.2	▲ 1.0	-7.8	-4.6	▲ 3.2	-1.9	0.0	▲ 1.9	8.0	11.6	▲ 3.6	3	4	▲ 1	42.5	56.6	▲ 14.1
4 上	1.7	7.3	▲ 5.6	-8.3	-2.9	▲ 5.4	-2.3	2.3	▲ 4.6	28.5	13.3	15.2	5	4	1	40.8	53.3	▲ 12.5
4 中	9.9	10.4	▲ 0.5	-0.3	-0.4	0.1	4.5	4.9	▲ 0.4	6.0	21.0	▲ 15.0	2	4	▲ 2	57.9	55.6	2.3
下	18.3	12.4	5.9	3.5	1.4	2.1	10.6	6.8	3.8	2.0	19.7	▲ 17.7	1	4	▲ 3	81.6	45.0	36.6
5 上	20.1	15.8	4.3	7.3	3.3	4.0	13.0	9.6	3.4	11.5	31.4	▲ 19.9	4	5	▲ 1	68.5	53.5	15.0
5 中	15.4	17.6	▲ 2.2	4.4	5.3	▲ 0.9	9.3	11.3	▲ 2.0	11.0	19.3	▲ 8.3	3	4	▲ 1	41.2	57.9	▲ 16.7
下	20.6	19.8	0.8	8.5	7.4	1.1	14.0	13.4	0.6	21.5	24.5	▲ 3.0	2	4	▲ 2	80.6	63.7	16.9
6 上	24.9	22.1	2.8	11.0	10.2	0.8	16.9	15.9	1.0	16.5	16.0	0.5	4	3	1	74.4	57.0	17.4
6 中	21.3	23.4	▲ 2.1	10.6	12.3	▲ 1.7	15.2	17.5	▲ 2.3	24.0	22.9	1.1	2	3	▲ 1	54.7	52.0	2.7
下	26.0	24.5	1.5	11.3	13.5	▲ 2.2	18.2	18.6	▲ 0.4	2.5	31.3	▲ 28.8	1	4	▲ 3	95.3	54.0	41.3
7 上	26.2	25.3	0.9	16.4	14.9	1.5	20.7	19.7	1.0	32.5	29.6	2.9	5	3	2	48.2	47.1	1.1
7 中	23.7	24.6	▲ 0.9	12.6	15.6	▲ 3.0	17.8	19.6	▲ 1.8	24.5	65.4	▲ 40.9	3	5	▲ 2	82.6	40.0	42.6
下	29.1	26.4	2.7	18.4	16.2	2.2	23.2	20.8	2.4	38.0	42.5	▲ 4.5	2	4	▲ 2	66.3	53.5	12.8
8 上	25.3	27.8	▲ 2.5	15.9	18.3	▲ 2.4	20.1	22.7	▲ 2.6	75.0	45.3	29.7	5	4	1	48.3	50.3	▲ 2.0
8 中	26.5	26.2	0.3	17.2	16.8	0.4	21.8	21.0	0.8	121.5	57.5	64.0	4	4	0	36.3	45.8	▲ 9.5
下	29.2	24.7	4.5	18.8	14.7	4.1	23.9	19.4	4.5	58.0	43.0	15.0	2	4	▲ 2	73.1	50.7	22.4
9 上	27.5	24.1	3.4	17.3	13.7	3.6	21.7	18.6	3.1	71.0	59.6	11.4	4	5	▲ 1	65.7	46.7	19.0
9 中	26.5	22.1	4.4	17.6	11.0	6.6	21.6	16.2	5.4	71.0	33.2	37.8	5	4	1	44.1	50.0	▲ 5.9
下	21.7	18.9	2.8	12.3	7.6	4.7	16.5	12.9	3.6	13.0	39.2	▲ 26.2	3	4	▲ 1	48.3	50.7	▲ 2.4
10 上	19.2	17.1	2.1	7.6	6.4	1.2	12.8	11.3	1.5	19.5	40.4	▲ 20.9	2	6	▲ 4	62.0	44.8	17.2
10 中	13.9	15.2	▲ 1.3	5.7	4.1	1.6	9.8	9.3	0.5	83.5	27.1	56.4	9	5	4	22.8	45.8	▲ 23.0
下	12.3	11.9	0.4	3.2	2.4	0.8	7.4	6.9	0.5	45.0	38.1	6.9	6	6	0	31.0	38.2	▲ 7.2

表3 農耕期間積算値（5月～9月）

	平均気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(hr)
本年	2800	592	928
平年	2624	560	773
比較	176	32	155

- 注1) 比布アメダス観測値。
 2) 平年は比布アメダス過去10か年の平均値。
 3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2. 作 況

(1) 水 稲 平年並

事由：播種は平年並の4月13日に行った。気温はやや低かったものの日照時間が平年並にあったことから出芽の揃いは良好であった。育苗期間中は4月中旬がやや低温であったが、4月下旬から5月上旬の高温多照により苗の生育は平年より進んだ。5月中旬は低温寡照となったが、苗の生育は良好であった。移植時の草丈は平年より高く、第1葉鞘高は平年よりやや低かった。主稈葉数は平年より多く、地上部乾物重は平年より重かったことから苗素質は平年を上回った。

移植は平年より1日早い5月18日に行った。移植時の風により葉先枯れが発生したものの、5月下旬から6月上旬の好天により、活着および初期生育は良好であった。6月中旬は低温に経過したが生育は順調で、生育進度は平年よりやや進んでいた。6月20日の調査では、主稈葉数は平年よりやや多く、 m^2 当たり茎数は平年の132～147%で多かった。草丈は「きらら397」が平年よりやや低く、「ほしのゆめ」、「ななつぼし」はやや高かった。

6月下旬は最低気温は低かったものの、日照時間が多く最高気温は高く経過し、7月上旬も好天に恵まれたことから、生育は順調に進み、幼穂形成期は平年並から2日早く、止葉期はほぼ平年並であった。しかし、7月中旬は最低気温が低く経過したため生育はやや遅れ、出穂期は平年に比べ1～2日遅く、穂揃い日数は平年に比べ平年並～2日長かった。8月20日の調査では、最終止葉葉数は平年並からやや多く、稈長、穂長は平年より短く、 m^2 当たり穂数は平年より多かった。

8月下旬からの好天により順調に登熟し、成熟期は平年並からやや遅かったものの、登熟日数はほぼ平年並であった。一穂粒数は平年対比で90～96%と少なかったが、 m^2 当たり穂数は平年対比で106～112%と多かったことから、 m^2 当たり粒数（ m^2 当たり穂数×一穂粒数）は平年対比で「ほしのゆめ」は107%と多く、「きらら397」、「ななつぼし」は平年並であった。稔実歩合はいずれの品種も平年並で、 m^2 当稔実粒数（ m^2 当たり粒数×稔実歩合）は平年対比で「ほしのゆめ」は108%と多く、「きらら397」、「ななつぼし」は平年並であった。登熟歩合は平年対比で「きらら397」は96%とやや低かったが、「ほしのゆめ」、「ななつぼし」はやや高かった。千粒重は平年対比98%～100%で平年並みからやや軽かった。粒厚1.90mm以上の収量は平年対比で100%～102%とほぼ平年並みとなった。玄米の検査等級はいずれの品種も1等で平年並からやや優った。

したがって、今年の作況は「平年並」である。

表4 平成24年度 水稻の生育および収量

項目 / 年		成苗ほしのゆめ			成苗きらら397			成苗ななつぼし			
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
生育季節	播種期 (月日)	4.13	4.13	0	4.13	4.13	0	4.13	4.13	0	
	移植期 (月日)	5.18	5.19	△1	5.18	5.19	△1	5.18	5.19	△1	
	幼穂形成期 (月日)	6.22	6.24	△2	6.25	6.25	0	6.22	6.23	△1	
	止葉期 (月日)	7.09	7.10	△1	7.13	7.12	1	7.09	7.10	△1	
	出穂期 (月日)	7.23	7.22	1	7.25	7.23	2	7.24	7.22	2	
	穂揃日数 (日)	9	7	2	7	7	0	9	7	2	
	成熟期 (月日)	9.08	9.05	3	9.13	9.11	2	9.09	9.10	△1	
	登熟日数 (日)	47	45	2	50	50	0	47	49	△2	
	生育日数 (日)	148	144	4	153	151	2	149	149	0	
移植時	草丈 (cm)	15.8	12.2	3.6	15.2	12.2	3.0	15.8	12.9	2.9	
	葉数 (枚)	4.4	3.9	0.5	4.5	4.2	0.3	4.4	4.1	0.3	
	茎数 (本)	2.4	2.0	0.4	2.2	2.0	0.2	2.1	1.8	0.3	
	第1葉鞘高(cm)	2.4	2.6	▲0.2	2.4	2.5	▲0.1	2.3	2.6	▲0.3	
	地上部乾物重 (g/100本)	5.83	3.75	2.08	5.63	3.93	1.70	5.79	4.10	1.69	
本田生育	葉数 (枚)	6月20日	8.3	8.0	0.3	8.9	8.6	0.3	8.5	8.3	0.2
		7月20日	10.3	10.0	0.3	11.4	11.2	0.2	10.6	10.5	0.1
		止葉葉数	10.3	10.0	0.3	11.4	11.2	0.2	10.6	10.6	0.0
	茎数 (本)	6月20日	746	553	193	861	587	274	669	506	163
		7月20日	864	757	107	850	748	102	766	709	57
	草丈 (cm)	6月20日	37.0	36.0	1.0	32.0	33.5	▲1.5	39.3	38.5	0.8
7月20日		76.7	79.6	▲2.9	69.4	74.0	▲4.6	79.6	83.3	▲3.7	
成熟期	稈長 (cm)	61.7	64.4	▲2.7	60.6	62.6	▲2.0	66.6	68.5	▲1.9	
	穂長 (cm)	15.3	16.3	▲1.0	16.1	16.9	▲0.8	16.1	17.2	▲1.1	
	穂数 (本/m ²)	794	711	83	754	676	78	688	652	36	
	有効茎歩合 (%)	83.1	86.4	▲3.3	73.1	80.9	▲7.8	82.0	87.5	▲5.5	
収量構成要素	一穂粒数 (粒)	41.1	43.0	▲1.9	39.9	44.1	▲4.2	49.6	52.1	▲2.5	
	m ² 当粒数 (×千)	32.6	30.5	2.1	30.1	29.6	0.5	34.1	34.0	0.1	
	稔実歩合 (%)	94.3	93.3	1.0	93.5	93.9	▲0.4	94.3	93.7	0.6	
	m ² 当稔実粒数 (×千)	30.7	28.5	2.2	28.1	27.8	0.3	32.2	31.7	0.5	
	登熟歩合 (%)	88.8	86.6	2.2	83.5	86.8	▲3.3	92.7	88.3	4.4	
	m ² 当登熟粒数 (×千)	28.9	26.4	2.5	25.1	25.7	▲0.6	31.6	29.9	1.7	
	稔実粒登熟歩合 (%)	94.2	92.8	1.4	89.3	92.4	▲3.1	98.3	94.3	4.0	
	精玄米千粒重 (g)	22.2	22.6	▲0.4	22.9	23.3	▲0.4	22.3	22.4	▲0.1	
	糲摺歩合 (%)	79.5	79.9	▲0.4	80.9	80.4	0.5	81.9	81.6	0.3	
屑米歩合 (%)	3.1	2.9	0.2	2.0	2.0	▲0.0	1.4	1.8	▲0.4		
収量	藁重 (kg/10a)	647	629	18	602	615	▲13	715	640	75	
	精粒重 (kg/10a)	760	745	15	780	781	▲1	808	803	5	
	糲藁比 (%)	117	119	▲2	130	128	2	113	126	▲13	
	精玄米重 (kg/10a)	604	595	9	631	628	3	662	655	7	
	収量比 (%)	102	100	2	100	100	0	101	100	1	
	検査等級 (等)	1	2上	—	1下	1下	—	1	2上	—	

苗・品種 / 出穂後日数 / 年		成苗ほしのゆめ			成苗きらら397			成苗ななつぼし		
		本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
登熟歩合	20日目	18.7	15.7	3.0	6.8	14.4	▲7.6	14.9	13.6	1.3
	30日目	67.9	63.6	4.3	58.3	62.9	▲4.6	62.1	58.7	3.4
	40日目	85.4	83.5	1.9	80.2	81.7	▲1.5	88.5	83.3	5.2

注 1) 平年値は前7力年の中、平成20年、平成21年を除く5力年の平均。

2) △は平年に比べ「早」、▲は平年に比べ「減」を示す。

3) 精玄米千粒重、精玄米重: 篩目1.9mm以上。水分15%に換算。

(2) 秋まき小麦 : 不良

事由：播種期は平年より5日遅い9月15日、出芽期は平年より8日遅い9月26日であった。播種期以降、降水量が多く土壌が過湿傾向で推移し、10月上旬の気温が低かったため生育は緩慢であった。10月20日の調査では草丈、茎数、葉数とも平年を下回った。根雪始は平年より5日早く、根雪終は平年より14日遅かったため、積雪期間は155日で平年より19日長かった。しかし、雪腐病発病度と越冬茎歩合は平年並であった。雪腐病の菌種は主に紅色雪腐病で、一部に雪腐褐色小粒菌核病がみられた。融雪以降、気温が高く経過し生育が急速に進んだため、出穂期は平年より5日早かったが、草丈は平年並から低く、茎数は平年より少なく推移した。6月中下旬および7月中旬の気温が低く経過したため、登熟は緩慢で成熟期は平年並となった。稈長は平年より短かく、穂長は平年よりやや長かった。千粒重と容積重は平年より重かったが、穂数は平年を大きく下回った。この結果、子実重は平年比91%と低収となった。検査等級は平年並であった。したがって、本年の作況は不良である。

表5 秋まき小麦の生育および収量

品 種 名		き た ほ な み		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	9.15	9.10	5
出芽期	(月日)	9.26	9.18	8
出穂期	(月日)	6.4	6.9	△ 5
成熟期	(月日)	7.19	7.19	0
越冬茎歩合	(%)	117.2	110.6	6.6
雪腐病発病度		17.2	15.7	1.5
葉数 (枚)	H23年10月20日	4.1	5.1	▲ 1.0
草 丈 (cm)	H23年10月20日	14.5	23.7	▲ 9.2
	H24年 5月20日	39.0	38.6	0.4
	H24年 6月20日	85.1	94.3	▲ 9.2
茎 数 (本/ m ²)	H23年10月20日	487	1199	▲ 712
	H24年 5月20日	1186	1360	▲ 174
	H24年 6月20日	545	740	▲ 195
成 熟 期	稈 長 (cm)	75	86	▲ 11
	穂 長 (cm)	8.9	8.5	0.4
	穂 数(本/m ²)	529	711	▲ 182
子実重	(kg/10a)	662	762	▲ 64
同上	平年比 (%)	91	100	▲ 9
リットル重	(g)	814	787	27
千粒重	(g)	41.5	38.7	2.8
検査等級	(等)	2中	2中	—

注 1) 平年値は、前7か年中、平成19年、22年(収穫年度)を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早、▲は平年より減を示す。

(3) 春まき小麦 : 良

事由：融雪の遅れにより土壌乾燥が進まなかったため、播種期は平年より1日遅い4月26日であった。播種後、高温に経過したことから、出芽期は平年より4日早い5月5日であった。出芽後、比較的好天に恵まれ、草丈、茎数は平年を上回って推移し、出穂期は平年より4日早かった。6月第6半句以降は、7月中旬の低温を除き、高温少雨傾向に経過し、成熟期は平年より1日早かった。成熟期における稈長は平年より長く、穂数、穂長、千粒重が平年を上回ったことから、子実重は平年比149%と多収であった。リットル重は平年を上回り、検査等級は平年並であった。なお、倒伏程度は中であった。

したがって、本年の作況は良である。

表6 春まき小麦の生育および収量

品 種 名		春 よ 恋		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	4.26	4.25	1
出芽期	(月日)	5.5	5.9	△4
出穂期	(月日)	6.17	6.21	△4
成熟期	(月日)	7.28	7.29	△1
草 丈 (cm)	5月20日	18.9	15.8	3.1
	6月20日	78.7	70.7	8.0
茎 数 (本/m ²)	5月20日	602	447	155
	6月20日	749	684	65
成 熟 期	稈 長 (cm)	97	87	10
	穂 長 (cm)	8.9	8.5	0.4
	穂 数(本/m ²)	493	460	33
総 重 (kg/10a)		1434	1101	333
子実重 (kg/10a)		630	422	208
同上平年比 (%)		149	100	49
リットル重 (g)		821	789	32
千粒重 (g)		45.8	39.3	6.5
検査等級 (等)		2中	2中	—

注 1) 平年値は、前7か年中、平成20年、22年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を示す。

3) リットル重は1リットル升による測定。

4) 5月20日報告の播種期の値に誤りがあったため訂正した。

(4) 大豆 : 平年並

事由: 播種期は平年並で出芽期は平年より1日早く、出芽揃いも良好であった。圃場が乾燥気味に経過したことなどから、生育初期における茎の伸長は抑制気味で、開花期は平年より2日遅かった。7月第2～3半旬のまとまった降水により主茎は急速に伸長し、7月31日～8月1日の雨により倒伏した。8月以降は著しい高温と多雨に経過し成熟が遅れ、成熟期は平年より13日遅い10月3日であった。成熟期における主茎長は平年より15cm以上長かった。分枝数および着莢数は8月20日時点では平年を上回っていたが、高温、多雨により倒伏した茎や莢が蒸れたりかびたため、一部枯死、脱落して減少し、成熟期における分枝数は平年並で、着莢数は平年をやや下回った。子実重は平年並で百粒重は平年より4.5g重かったが、屑粒率はかび粒などの発生により平年を大幅に上回り、検査等級も平年より低かった。

したがって、本年の作況は平年並である。

表7 大豆の生育および収量

品 種 名		ユキホマレ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.21	5.21	0
出芽期	(月.日)	6.03	6.04	△ 1
開花期	(月.日)	7.13	7.11	2
成熟期	(月.日)	10.03	9.20	13
主茎長 (cm)	6月20日	10.5	13.1	▲ 2.6
	7月20日	70.6	61.8	8.8
	8月20日	78.0	67.7	10.3
	9月20日	79.9	67.8	12.1
	成熟期	83.5	67.9	15.6
主茎 節数 (節)	6月20日	4.0	4.4	▲ 0.4
	7月20日	10.4	10.3	0.1
	8月20日	10.5	10.5	0.0
	9月20日	10.6	10.5	0.1
	成熟期	10.7	10.6	0.1
分枝数 (本/株)	7月20日	7.3	6.4	0.9
	8月20日	7.6	6.8	0.8
	9月20日	6.5	5.8	0.7
	成熟期	5.8	5.8	0.0
着莢数 (個)	8月20日	94	84	10
	9月20日	76	76	0
	成熟期	73	77	▲ 4
子実重	(kg/10a)	433	433	0
同上	平年比 (%)	100	100	0
百粒重	(g)	42.2	37.7	4.5
屑豆率	(%)	9.3	1.1	8.2
検査等級	(等)	合格	2上	-

注 1) 平年値は前7か年中、平成18年、22年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

(5) 小 豆 : やや良

事 由： 播種期は5月21日で平年より5日早く、播種後は高温に経過したものの、播種直後は土壤水分が少なかったことから、出芽期は平年より2～3日早いに止まった。出芽後は低温に経過し、6月20日時点では両品種とも主茎長は平年をやや下回っていた。6月第6半旬～7月上旬は高温少雨に経過し、主茎の伸長は抑制され、7月中旬は低温に経過したことから生育はやや緩慢であった。開花期は平年並であったが、7月下旬は高温少雨傾向に経過したことから、着莢は緩慢であった。8月上旬から中旬はやや低温多雨に経過し、徒長したが、着莢数の増加は順調であった。8月下旬以降は高温に経過したものの、開花期間の後半に着莢した莢が平年より多かったことから、成熟期は平年より3～4日遅かった。主茎長、主茎節数は平年を上回り、分枝数は平年並からやや下回った。百粒重は平年並からやや下回ったが、着莢数が平年を上回ったことから、子実重は「エリモショウズ」で平年比115%と多収、「しゅまり」で同100%と同等であった。倒伏程度は甚であり、成熟期前後に多雨であったことから、屑粒率は平年を上回り、検査等級は平年より劣った。

したがって、本年の作況はやや良である。

表8 小豆の生育および収量

品 種 名		エリモショウズ			しゅまり		
項 目	年 次	本 年	平 年	比 較	本 年	平 年	比 較
播種期	(月日)	5.21	5.26	△5	5.21	5.26	△5
出芽期	(月日)	6.7	6.9	△2	6.6	6.9	△3
開花期	(月日)	7.22	7.22	0	7.22	7.22	0
成熟期	(月日)	9.7	9.3	4	9.6	9.3	3
主茎長 (cm)	6月20日	4.1	4.7	▲0.6	5.0	5.7	▲0.7
	7月20日	28.7	34.5	▲5.8	28.7	35.4	▲6.7
	8月20日	74.5	67.5	7.0	80.4	73.3	7.1
	成熟期	79	73	6	89	76	13
本葉数 (枚)	6月20日	1.3	1.1	0.2	1.4	1.1	0.3
	7月20日	9.4	9.1	0.3	9.1	8.8	0.3
	8月20日	14.2	12.8	1.4	14.3	12.3	2.0
主茎節数(節)	成熟期	17.1	13.8	3.3	16.5	13.3	3.2
分枝数 (本/株)	7月20日	5.0	5.7	▲0.7	5.0	6.4	▲1.4
	8月20日	5.7	5.3	0.4	5.4	6.2	▲0.8
	成熟期	4.8	5.0	▲0.2	5.1	5.8	▲0.7
着莢数(個)	成熟期	71	57	14	65	54	11
子実重(kg/10a)		371	323	48	312	313	▲1
同上平年比(%)		115	100	15	100	100	0
百粒重(g)		12.0	12.2	▲0.2	11.1	11.7	▲0.6
屑粒率(%)		5.8	1.2	4.6	3.6	1.7	1.9
検査等級(等)		4中	3中	—	4上	3下	—

注 1) 平年値は、前7か年中、平成19年、20年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

(6) ばれいしょ : 平年並

事由: 根雪終が平年より14日遅かったため融雪剤を散布した結果、植付期は平年より3日早く、萌芽期は2日早かった。生育前半は少雨により地上部の生育は抑制され、茎長は短く、茎葉の繁茂程度は小さかったが、開花始は平年より4日早かった。塊茎形成期の少雨により上いも数は平年より少なく、上いも収量は平年をやや下回っていたが、でん粉価は平年より高めに推移した。7月下旬の高温、干ばつにより茎葉はしおれ、黄化が進んだが、8月以降の高温、多雨により茎葉の二次生長が散見され、枯凋期は平年より2日遅かった。収穫期における上いも平均一個重は平年より10g重かったが、二次生長はほとんどみられなかった。株当り上いも数が少なかったため、上いも収量は平年比90%であったが、規格外の小さいものが少なく、中以上いも収量は平年比97%、規格内いも収量は平年比99%とほぼ平年並であった。でん粉価は、高温、多雨により茎葉の二次生長や塊茎肥大が続いたため低下し、平年を0.4ポイント下回った。

したがって、本年の作況は平年並である。

表9 ばれいしょの生育および収量

品 種 名		男爵薯		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
植付期 (月.日)		5.08	5.11	△ 3
萌芽期 (月.日)		5.28	5.30	△ 2
開花始 (月.日)		6.21	6.25	△ 4
枯凋期 (月.日)		9.06	9.04	2
茎長 (cm)	6月20日	28.3	33.7	▲ 5.4
	7月20日	39.9	52.2	▲ 12.3
上いも数 (個/株)	7月20日	8.5	9.6	▲ 1.1
	8月20日	10.8	11.8	▲ 1.0
上いも平均一個重 (g)	7月20日	76	70	6
	8月20日	93	97	▲ 4
上いも収量 (kg/10a)	7月20日	2859	2997	▲ 138
	8月20日	4447	5043	▲ 596
でん粉価 (%)	7月20日	14.2	13.5	0.7
	8月20日	15.5	14.9	0.6
収 穫 期	上いも数 (個/株)	10.1	12.4	▲ 2.3
	上いも平均一個重 (g)	101	91	10
	上いも収量 (kg/10a)	4526	5048	▲ 522
	同上平年比 (%)	90	100	▲ 10
	中以上いも収量 (kg/10a)	4147	4285	▲ 138
	同上平年比 (%)	97	100	▲ 3
	規格内いも収量 (kg/10a)	4037	4084	▲ 47
	同上平年比 (%)	99	100	▲ 1
でん粉価 (%)	14.5	14.9	▲ 0.4	

注 1) 平年値は、前7か年中、平成19年、22年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

3) 規格内収量は、生食用規格内 (M~2L:60~260g) の収量である。